



NIPS
No.033
2012.2.27

かわらばん

脳とからだの不思議を解き明かす

特 集

北米神経科学学会大会：
この巨大大会に参加する意義とは（２）

脳形態解析研究部門 助教 松井 広

それから5年を経て、今年発表したのは、スピルオーバーである。電気生理学・微細形態学・シミュレーションの全てがそろい、どの程度のスピルオーバーが生じるのかを定量的に評価し、近隣のシナプスに与える影響を理解することがようやく適ったのである。熱狂的にスピルオーバーを調べるトレンドは過ぎている。しかし、てんでバラバラだった研究アプローチをまとめあげること、これまでになかった定量的理解を打ち出すことができたと自負している。それなりの評価は得られたようで、4時間のポスター掲示時間中、やはり、聴衆が途切れることはなかった。このように、どれだけの研究者の興味を惹きつけられるか、ダイレクトに手ごたえが得られるのがこの大会である。

今年の発表内容は、論文に投稿したものの、まだ審査結果が返ってきていないものだった。当然、聴衆の中には、誰かわからないが、審査員もいたはずだ。ここは勝負どころである。また、投稿した学術誌の編集者とランチを取る機会も偶然得た。ポスターを見てなかったとのことで、小型に印刷したポスターを、ハンバーガーの並ぶプレートの間に広げて、みんなでパクつく中、超高速で紹介させてもらった。千載一遇。この大会は、いかに売り込むか、いかに説得するかを競う場であり、他人の研究の情報収集などは、本当は二の次なのである。これが功を奏したのかどうか分からないが、大会最終日には、編集部からのメールで、必要な修正が施されれば、論文掲載を前向きに検討するとの報を得た。一歩前進である。

ところで信じ難いことに、ポスターを掲示するだけで、前に立っていない人、少し離れたところに立っている人、ポスターの前に聴衆がいるのに、説明しましうか、とアタックをかけない人がある。特に日本からの発表者に多いのが、知り合いの日本人とのみ日本語で話し込んでいる例である。何しに来ているのだろうか、馬鹿なんじゃないかと思う。論理的思考と実験データで攻めることができるのがサイエンスであり、熱意があれば多少の英語の問題など取るに足らない。相手の目を見るだけで、理解のレベルは一発で分かるものである。ポスター前の質疑応答の攻防を通して、先に述べた、我々研究者の集合的無意識やトレンドといったものの方向付けが形成されていくのだ。

ポスター前の攻防に加えて、ポスターの並ぶ列の間の通路が、また面白い空間である。ここは、ひとつには、人身売買の場となる。ポスターで発表する若い学生やポスドクの就職先を教授達が相談し、うちの学生をもらってくれないか、そちらに腕のいい電気生理学のポスドクはいないか、といったことを話し合う。旧知と近況を交換するものここだ。今まさに実験をしているところであり、この段階では絶対に公にできないことを、こっそり教え合う。といっても、手の内を全部見せるわけではない。相手の情報を引き出すために、こちらも情報を出す。化かし合いや騙し合いも当



然ある。家族ぐるみの本当の友人だったとしても、お互い、そのあたりは分かりつつ、情報を探り合う。今年、私が発表したスピルオーバーの話は、論文投稿の段階まで来ているのであり、いわば、もう終わっているネタと言える。やはりトレンドに乗って、私もまた、脳細胞の活動を光で制御するというオプトジェネティクスにも取り組んでいる。何を目的にして、どこまで進んでいるのかはおくびにも出さずに、オプトジェネティクスを扱う上で、直面する問題点や解決法の情報、論文はもちろん、ポスターにすら掲載されていない情報は、このポスターとポスターの間の空間で集めた。当然、来年以降に向けて、我々のネタがどれだけ新鮮でいられるかを値踏みしつつ、である。また、上に述べたように、知り合いを通して、編集者を捕まえて、ランチに誘い出すのもここである。本当に、発表を見に行くというよりも、人に会いに行くのがこの大会である。昼飯・夕飯も大事な交流の場。毎食一人でファストフードではせっかくの時間をもったいないので、興味を共有する仲間と集まるようにしたい。突発的に集まるのも困難なので、事前に打ち合わせしよう。気に入ったレストランは、観光ガイドで予め調べて、ネットで予約しておくのがベストだ。

5日間にも及ぶこの大会は、とにかく歩きまわるので、足が疲れる。できるだけ身軽に、履きなれた靴で参加しよう。湿布を持参するのも手だ。しゃべりまくりで喉も渇くが、会場内の売店ではぼられるので、ペットボトル持参は必須。これだけやって、過ごした後は疲労困憊する。どの大会より、参加意義はあると思うが、正直、2年に1回程度で良いというのが感想だ。

新任者紹介

2月より動物実験センター 山手分室で技術支援員としてお世話になっております、古山真基子と申します。胚の凍結、融解、移植など胚操作を担当することになりました。早くみなさんの胚操作のお手伝いができるようにがんばっていききたいと



思います。動物実験センターでは、マウスのお世話や動物の搬入、輸送箱の準備のお手伝いもしております。よろしくお願ひいたします。

会議／委員会報告

所長報告(第86回岡崎3機関所長会議2012.1.17／第110、111回役員会・機構会議2012.1.19、27／第30回教育研究評議会2012.1.26／第28回経営協議会2012.1.27)
○基生研パイオリソースバックアップ拠点(仮称)施設建設予定地検討 ○岡崎3機関と岡崎信用金庫との連携協定と奨学寄付金 ○H24予算内示 ○H24機構予算編成・配分案 ○伊根実験室転用方策 ○第12回機構シンポジウム

教授連絡会(2012.2.14)

(1)第30回(平成23年度第6回)企画立案委員会報告(年俸制研究職員制度の段階的導入、革新的コネクトミクスと超高圧電子顕微鏡による網羅的三次元再構成システム、平成24年度計画案、パイオリソースバックアップ拠点施設計画、平成24年度運営会議委員と議長、大学院生支援寄付と募集、岡崎3機関動物実験者および飼育者の動線など)
(2)審議事項 ○人事(来年度の体制ほか) ○機構シンポジウム(3.20(火)、東京国際フォーラム、岡崎OCC) ○チュービンゲン大学との合同シンポジウム(2.24(金)-25(土)、OCC) ○スタッフ会開催(3.21(水)、山手2号館2階大会議室)
(3)報告事項 ○「点検評価と将来計画」 ○ベクター室の設置(基生研からの部屋の借用) ○耐震改修工事関係(2期目移転先、スケジュール、移転機器調査、電話、G回路、自販機など) ○動物実験室、飼養保管施設の点検 ○新潟大脳研との国際シンポジウム(3.6(火)-7(水)、山手3号館2階) ○多次元トレーニングコース&レクチャー(3.21(水)-23(金)、職員会館2階) ○トレーニングコース実施に伴う動物実験計画書の変更届け ○外国人体験入学応募状況等 ○安全衛生関係(安全衛生小委員会:3.27(火)、安全衛生講習会:7.24(火)、巡視報告:事務室環境、転倒防止対策状況) ○生理研懇談会、新任者オリエンテーション(4.6(金)、OCC) ○技術課関係(人事、技術研究会と表彰、核燃料物質と廃液の保管)

生理学研究所教授会議(2012.2.14)

(1)報告事項 ○所長会議報告 ○委員会報告(安全衛生委員会1.17／評価に関するタスクフォース1.24、2.9／生理研共同研究小委員会1.30／生理研超高圧電顕室共同利用実験委員会1.31／さくら保育園運営委員会1.31／岡崎情報ネットワーク管理運営専門委員会2.2:フィッシュメールによるIDおよびパスワードの搾取とSPAMメール送信／アウトリーチ活動連絡委員会2.6／生理研脳機能イメージング共同利用実験委員会2.9／岡崎共同利用研究者宿泊施設委員会2.13)
(2)その他 ○平成23年度共同利用研究者等追加採択 ○平成23年度共同研究受入れ ○平成23年度寄附金受入れ ○平成23年度予算執行状況 ○政府調達の適用基準額引き下げ
(3)審議事項 ○規則等見直し ○特別協力研究員受入れ ○特別訪問研究員受入れ

総研大生命科学研究科生理科学専攻委員会(2012.2.14)

○委員会等報告(生命科学研究科副専攻長会議1.17／統合生命科学プログラム特別委員会1.24) ○博士論文審査 ○学生懲戒規定 ○入学者選抜試験実施要項 ○平成24年度講義担当(専門科目担当、特別講義担当) ○各種委員会委員

統合バイオサイエンスセンター教授会議(2012.2.8)

(1)報告事項 ○平成23年度予算執行状況 ○統合パイオレポー

ト作成

(2)審議事項 ○平成23年度統合パイオ共通経費 ○平成24年度統合パイオ共通経費 ○平成25年度概算要求事項
(3)その他 ○運営委員会2.29

行事予定

2.27(月) 昼食セミナー(山手3号館9F東セミナー室B)
3.2(金) 生理科学専門科目講義(職員会館2F大会議室)
3.3(土) 【耐震工事】一般回路・G回路停電(超高圧電顕棟)
3.5(月) 生理研運営会議(事務センター第1会議室)
3.6(火) 新潟大脳研との合同国際シンポジウム(OCC)
3.10(土) 【耐震工事】
9:00-15:00 一般回路停電(生理研実験研究棟、超高圧電顕棟、MRI棟)
14:00-16:00 G回路停電(超高圧電顕棟)
15:30-18:00 G回路停電(生理研実験研究棟)
3.11(日) 明大寺エレベータ2台停止
3.13(火) 教授連絡会・教授会議・総研大専攻委員会
3.14(水) 統合パイオ教授会議、山手地区連絡協議会
久木田先生退職記念最終講義、囲む会(職員会館大会議室)
3.15(木) メンタルヘルス研修会(OCC)
3.17(土) -18(日) 明大寺エレベータ2台停止
3.20(火) 機構シンポジウム(東京国際フォーラム、OCC)
3.21(水) スタッフ会(山手3号館2F大会議室)
大学院特別講義(山手3号館9階東セミナー室B)
-23(金) 多次元脳トレーニング&レクチャー(職員会館大会議室)
3.23(金) 動物実験教育訓練講習会(明大寺)
3.29(木) -31(土) 第89回 日本生理学会(松本市)

注

脳科学:脳科学専攻間融合プログラム

統合生命科学:統合生命科学教育プログラム

その他 生理研スケジュール:ハイパースケジュール参照
(Staff Only- 受付のページ)、施設整備、工事スケジュール:
施設課HP(<http://www.adm.orion.ac.jp/kanri/shisetsu/contents.htm>)をご覧ください。

生理研実験研究棟の第1期耐震改修工事も、残すところあと1ヶ月となりました。現場では完成に向けて急ピッチで作業を進めています。少しずつ外観が現れ、窓あたりが今までと違っていることに気付く方もいるのではないのでしょうか。

改修に伴い大きく変更される点は、1階に会議室や展示室が配置されること、地階と2階に共通室が多く配置されること、3階から7階に各部門の研究室が配置されることです。各研究室はオープンラボとなり、機能的な部屋の配置を可能としています。また、1階のトイレは男女ともに大きくなります。一方で2階から7階には給湯室がなくなり、各ラボで措置してもらうことになります。

喫煙所は、いまのところ作る予定はありませんので、職員会館をご利用ください。各研究所では館内禁煙となっています。ルールを守っていただきますようお願いいたします。

昨今の頃は、引越計画や部屋の設計でてんてこ舞いでした。そして2期目に入りますが、同様にてんてこ舞いです。関係者にはいろいろな調査依頼と引越にご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、エネルギー節約のため、帰宅時には部屋と廊下の消灯を忘れないでください。

編集委員 大河原、小泉、岡田